

# 問 公共施設総合管理計画等の検討状況は

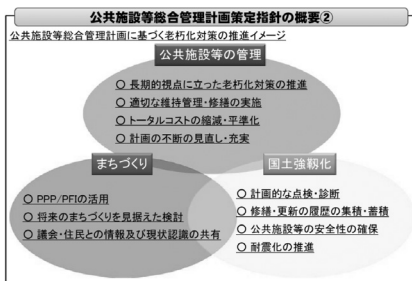
答 今年度中の公開を目指す

新政とうかい 武部 慎一 議員



**議員** 社会インフラ整備に関する公共施設等総合管理計画、長期計画等は、東海村のこれからの「まち・ひと・しごと創生」に非常に重要な事業。「総合管理計画」は全庁的な事業を俯瞰して見渡すためのもの、「重みづけ優先順位」はまちづくりの方向を示すもの。リスクの数値化は、具体的な運用計画のスケジュールを定めるための作業である。全ての施設等を更新するとは限らず、スクラップ&ビルドを絶えず念頭に置き、次の世代へつないで、その時代に必要<sup>な</sup>社会インフラは何かを明確にしていけるためのもの。今後のスケジュール、概要等を伺う。

**総務部長** 本計画では、建築物を長寿命化させ70年間使用すること、建設年の順に更新を原則とし、施設ごとの施設老朽度、耐震性能、施設管理経費等の要素を5段階評価で行う計画として作成を進め今年度中には公表できるような作業を進めている。



公共施設等総合管理計画策定指針の概要

# 問 公共施設の建設と施設活用に疑問

答 「歴史と未来の交流館」建設は必要

光風会 恵利 いつ 議員



**議員** 村が1年前に取得したリコッティ（現在のアイヴィル）は、開館から8ヶ月あまり経過した。維持管理費に年間4000万円計上。しかし、いまだ住民に十分活用されていない。施設になつていない。

**村長公室長** 地域交流の場、情報発信の場となるようにアイヴィルの認知度向上、利用活性化を図っていく。現在、観光協会が中心となり利用活性化に向けた取り組みを検討中。

**議員** ここ10年、学校4校、村松宿こども園、学童クラブ2施設等大規模施設の建設が続いた。これらは必要な建物であるが、維持管理、改修費などが将来にわたり重くのしかかるのは必至。この状況において新たに計画の中の「歴史と未来の交



いまある施設を賢く使う工夫を（アイヴィル）

流館」建設は慎重に考えるべき。

**教育次長** 本村では、身近な地域資源（遺物など）を活用した体験学習の場が少なかった。青少年をはじめ、あらゆる世代の村民が郷土を学び交流するための複合機能を有する交流館は必要と考える。

**議員** 建設費、その後の維持管理費はすべて血税。建設反対の声が今も届けられている。